

(1) 道路網の整備と維持管理

【施策の目的】

道路の効率的・計画的な整備や維持管理により、県民の安全・安心、快適な日常生活や産業活動を確保します。

【評価】

<前年度から評価実施年度上期までの成果と課題>

- 骨格幹線道路については、優先的に整備を進め、安全・安心、快適に移動できる道路空間の形成を図った。整備率は令和7年3月時点で97.5%となり、目標値である97%を達成している。
 - 幹線道路・生活関連道路については、地域の実情や課題に応じて1.5車線の改良を取り入れるなど、効率的・効果的に整備を行い、安全・安心、快適に移動できる道路空間の形成を図った。整備率は令和7年3月時点で79.7%となり、目標値である79%を達成している。
- ※1.5車線の改良…地域の地形や道路の利用状況等を考慮し、待避所の設置、突角せん除などの改良や1車線・2車線を適度に組み合わせ、早期に通行の安全や一定の走行速度を確保できる道路改良の手法
- 骨格幹線道路、幹線道路・生活関連道路とも、狭あいな区間や線形の悪い区間が残っており、限られた予算の中で整備を進めていく必要がある。
 - 道路網の維持管理については、橋梁等について計画的な修繕を行っており、老朽化対策が確実に進みつつある。また、早期に措置を講ずべき橋梁の修繕率は、令和7年3月時点で58%となり概ね計画通りの進捗率となっているが、引き続き対策完了に向け着実に事業を進めていく必要がある。
 - 道路管理瑕疵（穴ぼこ）による事故件数が令和5年度は7件だったが、令和6年度は4件になった一方で、道路の安全性に支障をきたす穴ぼこ等の異常を速やかに発見し、対処する体制の確保が課題である。

<第2期島根創生計画初年度から評価実施年度上期までの複数年度にわたる成果と課題>

※上記で重複しない成果・課題を記載

この欄は複数年度にわたる成果と課題を記載するため令和9年度から記載

【今後の方向性】

①骨格幹線道路の整備

国土強靱化実施中期計画に対応した国への予算要求などを通じて十分な財源確保に努め、引き続き集中投資を行い、優先的に整備する。

②幹線道路・生活関連道路の整備

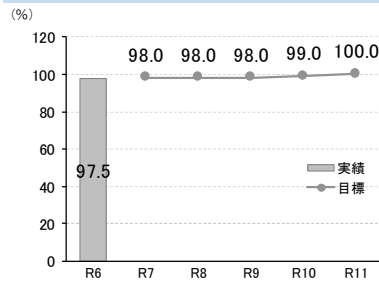
地域の実情や課題に応じて、1.5車線の改良など様々な整備手法を組み合わせることにより、効率的・効果的な整備に今後も継続して取り組む。

③道路網の維持管理

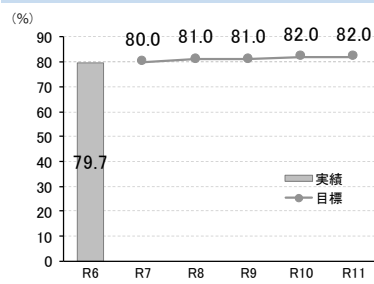
早期の措置が必要な施設の修繕を進めていくための財源確保に努め、着実な事業の進捗を図る。また、穴ぼこ等の異常を早期に発見し必要な対応を行うため、「パトレポしまね」の利用を促進するとともに、住民からの通報を維持管理に積極的に活用する。

【施策の主なKPIの状況】

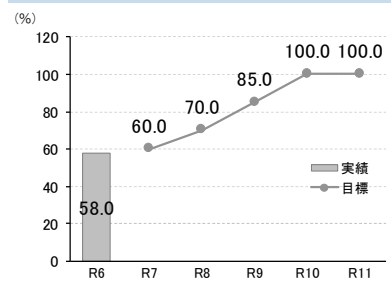
1) 骨格幹線道路の改良率【当該年度3月時点】（累計値）



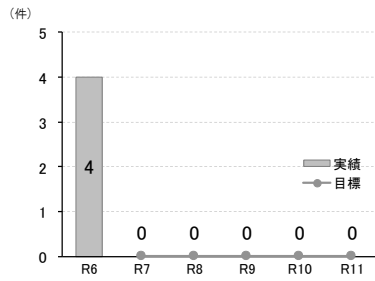
2) 幹線道路・生活関連道路（優先整備区間）の改良率【当該年度3月時点】（累計値）



3) 早期に措置を講ずべき橋梁の修繕率【当該年度3月時点】（累計値）



4) 道路管理瑕疵（穴ぼこ）による事故発生件数【当該年度4月～3月】



施策の主なK P I

施策の名称		VII-1-(1) 道路網の整備と維持管理								
番号	K P I の名称	上段は目標値、下段は実績値					単位	計上分類	備考	
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度				令和11年度
1	骨格幹線道路の改良率【当該年度3月時点】	98.0	98.0	98.0	99.0	100.0	%	累計値		
		97.5								
2	幹線道路・生活関連道路(優先整備区間)の改良率【当該年度3月時点】	80.0	81.0	81.0	82.0	82.0	%	累計値		
		79.7								
3	早期に措置を講ずべき橋梁の修繕率【当該年度3月時点】	60.0	70.0	85.0	100.0	100.0	%	累計値		
		58.0								
4	道路管理瑕疵(穴ぼこ)による事故発生件数【当該年度4月～3月】	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	件	単年度値		
		4.0								
5										

(第2期島根創生計画に掲げる施策の【取組の方向】)

①骨格幹線道路の整備

県内の道路網の骨格となる、県内外の都市間をつなぐ道路であり、災害時などの輸送路として重要な役割を担う道路を骨格幹線道路に位置付け、優先的に整備します。

②幹線道路・生活関連道路の整備

各地域と生活圏中心都市をつなぐ主要な道路や、それらと一体となって各地域間をつなぐ道路などを幹線道路・生活関連道路(優先整備区間)に位置付け、地域の実情や課題に応じ、効率的・計画的に整備します。

③道路網の維持管理

老朽化の進む道路施設については、定期的な点検と早期の修繕により、維持管理費用の縮減と長寿命化を図ります。また、効率的でより高度な維持管理体制の構築に努めます。

事務事業の一覧

施策の名称		VII-1-(1) 道路網の整備と維持管理				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	道路維持修繕事業	道路利用者	道路を安全で快適に利用できる状態に維持する。	8,273,789	10,148,862	道路維持課
2	道路愛護意識等啓発事務	道路利用者・地域住民	道路を大切に利用する心を育てる。	25,952	31,265	道路維持課
3	骨格幹線道路整備事業	県民・道路利用者	県内の道路網の骨格となる骨格幹線道路の優先的な整備による、県民の安全・安心、快適な日常生活や産業活動の確保	5,401,750	9,609,639	道路建設課
4	幹線道路・生活関連道路整備事業	県民・道路利用者	幹線道路・生活関連道路(優先整備区間)の効率的・効果的な整備による、県民の安全・安心、快適な日常生活や産業活動の確保	9,207,223	8,836,299	道路建設課

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	道路維持課
-----	-------

事務事業の名称		道路維持修繕事業			
目的	誰(何)を対象として	道路利用者	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	道路を安全で快適に利用できる状態に維持する。		うち一般財源 (千円)	8,273,789
令和7年度の取組内容	道路を安全で快適に利用できる状態に保つために、以下の取り組みを継続して実施する。 ・橋梁等の2巡目点検(R1~R5)で健全性Ⅲと診断された施設の修繕 ・道路パトロールにより変状等を早期に発見し、適切な修繕を迅速に実施 ・安全で快適な道路空間を確保するために、除草その他の維持修繕を実施 ・「ハトレボしまね」「道と川の相談ダイヤル」の広報を実施				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと	落石や路面の陥没等、道路の異常を道路利用者から通報してもらえるよう「ハトレボしまね」や「道と川の相談ダイヤル」の広報を行った。また、老朽化対策の効率化・コスト削減を図るため、点検への新技術活用について検討を行い、具体的方針を個別施設計画に記載した。				
1	上位の施策	VII-1-1(1) 道路網の整備と維持管理	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	早期に措置を講ずべき橋梁の修繕率【当該年度3月時点】	目標値			60.0	70.0	85.0	100.0	100.0	%	累計値
		実績値	45.0	58.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2	道路管理瑕疵(穴ぼこ)による事故発生件数【当該年度4月~3月】	目標値			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	件	単年度値
		実績値	7.0	4.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・道路法により、5年に1回の近接目視点検が義務付けられている橋梁等については、点検結果に基づき計画的に修繕工事を行っている。また、その他の道路施設(舗装、法面構造物)についても、計画的に点検・修繕を行っている。 ・道路の安全性に支障をきたす穴ぼこ等の異常を、速やかに発見し対処するために、路線(区間)の交通量に応じて週1~2回の頻度で道路パトロールを実施している。									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	1. 橋梁等の法定点検施設については、長寿命化修繕計画に基づく定期点検及び修繕の実施により、安全性を向上させた。 【定期点検(R6年度)】橋梁545橋、トンネル35本、シェッド・シェルタ-19基 【修繕工事(R6年度)】橋梁40橋、トンネル13本、シェッド・シェルタ-4基、門型標識1基 2. 舗装は、R2年7月に策定した舗装修繕計画に基づく修繕を行い、路面の安全性を向上させた。 【修繕工事(R6年度)】舗装14km 【パトレボしまねのダウンロード数(累計)】2,894件(H29運用開始)、4,145件(H30)、4,773件(R1)、5,445件(R2)、5,972件(R3)、6,597件(R4)、7,052件(R5)、7,095件(R6)
課題分析	① 課題	1. 道路施設の維持管理費用を縮減するためには、変状が小さいうちに小規模な修繕を行う「予防保全型」の対応が重要であるが、そのためには、早期に措置を講ずべき状態(健全性Ⅲ)の対策を早期に完了させる必要がある。 2. 道路パトロール以外の方法で、穴ぼこを早期に発見可能な「パトレボしまね」のダウンロード数は微増傾向である。
	② 原因	1. 法定点検2巡目(R1~R5)においても健全性Ⅲの施設数が多く、相応の対策費用を要する。 2. 「パトレボしまね」は運用開始から8年が経過し、大幅な新規登録が見込めない。
	③ 方向性	1. 早期の措置が必要と診断された施設の修繕を計画的に進めていくための予算確保に努め、修繕の確実な進捗を図る。 2. リニューアルした「パトレボしまね」のチラシを活用して、更なる情報発信を行う。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

道路維持課

事務事業の名称		道路愛護意識等啓発事務			
目的	誰(何)を対象として	道路利用者・地域住民	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	道路を大切に利用する心を育てる		25,952	31,265
			うち一般財源 (千円)	0	0
令和7年度の取組内容		・ハートフルしまね(道路部門)では、道路を安全かつ快適に利用できるよう、清掃や美化等のボランティア活動に意欲を持つ団体を認定し、協働していく。(保険加入、交付金等) ・道路愛護団体等表彰事務では、道路愛護意識の向上を図るため、道路愛護に貢献のあった個人及び団体を表彰する。			
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点					
1	上位の施策	Ⅶ-1-(1) 道路網の整備と維持管理	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	ハートフルしまね(道路)登録団体の活動率【当該年度3月時点】	目標値			90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	%	単年度値
		実績値	82.4	81.3							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・登録団体数の増加 ・登録団体数と実働団体数 R5年度: 659団体(対前年比-9)、うち実働543団体(82.4%) R6年度: 656団体(対前年比-3)、うち実働533団体(81.3%)									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・地域コミュニティの維持、企業の社会貢献等に一役買っている。
課題分析	①課題	・登録団体数が減少に転じた。 ・活動率は、ほぼ横ばい状態で推移している。
	②原因	・構成員の高齢化による活動自粛などで休眠状態の団体あり。 ・制度が広く定着し、飽和状態となっている。
	③方向性	・引き続き広報紙等の媒体を通じ、広く制度の周知を図る。 ・優良団体に対する表彰のPRも行き、新規登録や活動継続の一助とする。 ・長年にわたって活動実績がない団体を抽出し、継続意思の有無を確認のうえ、必要に応じて登録名簿の整理を行う。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

道路建設課

事務事業の名称		骨格幹線道路整備事業				
目的	誰(何)を対象として	県民・道路利用者		事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県内の道路網の骨格となる骨格幹線道路の優先的な整備による、県民の安全・安心、快適な日常生活や産業活動の確保			5,401,750	9,609,639
令和7年度の取組内容	骨格幹線道路において、幅員狭小・線形不良区間等の未整備区間の改良事業等を国庫補助事業や交付金事業、県単独の道路整備事業費を活用して推進。 令和7年度は骨格幹線道路を2.1km供用する予定。 「骨格幹線道路」 ・県内外の都市間をつなぐ道路であり、災害時などの輸送路として重要な役割を担う道路 ・全国の高速道路網と一体となってネットワークを形成し、高速道路の整備効果を早期に全県へ波及させる道路 など					
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと	国に対し、必要な道路事業が着実に進められるよう、国庫補助事業や交付金などの予算を十分確保し、必要な事業が多く残された地方に重点配分されるよう要望を行った。					
1	上位の施策	VII-1-(1) 道路網の整備と維持管理	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	骨格幹線道路の改良率【当該年度3月時点】	目標値			98.0	98.0	98.0	99.0	100.0	%	累計値
		実績値	97.3	97.5							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		県内の国・県道の改良率は、全国平均78.0%に対し、70.5%(全国38番目)と大きく下回っている。(令和5年4月1日現在の数値)									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	令和6年度は、下記工区が供用開始され、安全・安心、快適に移動できる道路空間が新たに形成された。 (主)出雲三刀屋線 上塩冶工区 国道375号 粕淵工区、湯抱2工区 国道488号 落合工区
課題分析	① 課題	骨格幹線道路の整備が未完了であり、幅員狭小・線形不良区間がある。
	② 原因	道路整備に必要な予算が十分に確保出来ていない。
	③ 方向性	国に対し、地域の実情に応じた必要な予算が配分されるよう、より一層丁寧に状況を説明し、必要な予算が配分されるよう要望していく。骨格幹線道路に集中投資を行い、優先的に整備する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	道路建設課
-----	-------

事務事業の名称		幹線道路・生活関連道路整備事業				
目的	誰(何)を対象として	県民・道路利用者		事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	幹線道路・生活関連道路(優先整備区間)の効率的・効果的な整備による、県民の安全・安心、快適な日常生活や産業活動の確保			9,207,223	8,836,299
				うち一般財源 (千円)	576,894	376,565
令和7年度の取組内容		幹線道路・生活関連道路(優先整備区間)において、幅員狭小・線形不良区間等の未整備区間の改良事業等を国庫補助事業や交付金事業、県単独の道路整備事業費を活用して推進。 令和7年度は幹線道路・生活関連道路(優先整備区間)を3.9km供用する予定。 「幹線道路・生活関連道路(優先整備区間)」 ・各地域と生活圏中心都市をつなぐ主要な道路や、それらと一体となって各地域間をつなぐ道路 ・地域の魅力・活力向上や小さな拠点づくりなど地域の課題解決に寄与する道路や、生活に密着する道路 など				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点		国に対し、必要な道路事業が着実に進められるよう、国庫補助事業や交付金などの予算を十分確保し、必要な事業が多く残された地方に重点配分されるよう要望を行った。				
1	上位の施策	VII-1-(1) 道路網の整備と維持管理	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	幹線道路・生活関連道路(優先整備区間)の改良率 【当該年度3月時点】	目標値			80.0	81.0	81.0	82.0	82.0	%	累計値
		実績値	79.2	79.7							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		県内の国・県道の改良率は、全国平均78.0%に対し、70.5%(全国38番目)と大きく下回っている。(令和5年4月1日現在の数値)									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	令和6年度は、下記工区が供用開始され、安全・安心、快適に移動できる道路空間が新たに形成された。 (一)海潮穴道線 上来待3工区 (主)斐川一畑大社線 鷺浦工区 (主)浜田作木線 吉原工区 (一)西ノ島海士線 倉の谷工区 など、23工区
課題分析	①課題	幹線道路・生活関連道路(優先整備区間)の整備が未完了であり、幅員狭小・線形不良区間がある。
	②原因	道路整備に必要な予算が十分に確保出来ていない。
	③方向性	国に対し、地域の実情に応じた必要な予算が配分されるよう、より一層丁寧に状況を説明し、必要な予算が配分されるよう要望していく。地域の課題や実情に応じ、1.5車線の改良を取り入れるなど、効率的・効果的な道路整備に取り組む。

